

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4170600029		
法人名	社会福祉法人 誠和福祉会		
事業所名	グループホーム みふね庵		
所在地	佐賀県武雄市東川登町4058番地 (電話) 0954-20-0506		
評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	平成 21年2月6日	評価確定日	平成 21年3月30日

【情報提供票より】(平成20年12月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 8 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤	7 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 6.6

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋建て		
	1 階建ての	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	250 円	昼食 350 円
	夕食	400 円	おやつ 0 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成20年2月6日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87 歳	最低	71 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	古賀内科医院 寺尾歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームみふね庵は、豊かな自然に囲まれ、同じ敷地内には特別養護老人ホーム、ケアハウスやその他介護関連事業が行われ連携体制が整えられている。ホームは、木造平屋で木のぬくもりが感じられ、ホーム内中心には中庭があり、檜風呂の浴室や、ゆったりくつろげる和室が設けられ家庭的な雰囲気が感じられる。また音楽療法を取り入れる等、職員と利用者と共に「楽しいことは、より長く、楽しくないことは、より短く」というテーマで取り組まれている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価の結果は、管理者、職員全体で話し合いが行われ、改善に向け取り組まれている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者、職員全員で話し合いが行われ改善に向け取り組まれている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では、自己評価、外部評価等意見交換が行われている。また、行事計画時は自治会の方にアドバイスを頂く場としても活用したり、協働・連携が行われている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族とは日頃よりコミュニケーションを図り、意見等を言いやすい雰囲気作りに努められている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域で開かれるイベントは、年4回ほど参加し、地域との交流がなされている。行事では、ボランティアの協力を得たり、地域活動を通して交流を深められるよう努められている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初より「緩やかに、共に、楽しく、その可能な限り自由に・・・」という、入居者がその人らしく暮らし続けることを目指した理念を掲げられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、職員が常に見えるところに掲示され、繰り返し意識付けがなされ、話し合いを行いながら実践に向けて取り組まれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域で開かれるイベントは、年間行事に組みこまれ、年4回程度(祭り等)参加。行事ではボランティアの協力を得、地域活動の参加を通して地域の方との交流に努められている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義・目的を理解し、入居者一人ひとりの状況に応じて活かせるように話し合いをし、改善に向けた取り組みをされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、自己評価、外部評価の報告、意見交換が行われ、今後のサービスに活かすよう取り組まれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者とは、相談等については電話で行なっていく体制をつくられている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会が多く、入居者の暮らしぶりや健康状態を、家族来訪時に報告され、よくコミュニケーションを取られている。また、年3回の御船荘だよりにてホーム活動、入居者の表情を掲載し家族へ配布されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しているが、ご家族からの意見や来訪時に寄せられた意見は、運営推進会議やミーティングで話し合い、業務に反映できるように取り組まれている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動については、入居者の対応がスムーズにできるように事前に接し方等の情報を伝達し、入居者との関係が築いていけるように配慮がなされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で新人職員への研修体制を整えられている。また、外部研修(レクリエーション研修等)後は、他の職員へ伝達する機会を設け、業務に活かせるよう取り組まれている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会での研修等を通して、同業者との交流は行なわれているが、地域の同業者との交流する機会、他施設への音楽療法に参加した以外ほとんどない。	○	地域の同業者との交流を図り、いろいろな現場を知る事で、より一層のサービスの質の向上へつながる事を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には、入居者の家庭での生活や、身体状況の把握を行い、可能な限り施設を体験してもらう等、心理的負担をかけないよう、家族と相談し対応されている。入居の際は、花束を渡し歓迎の気持ちを伝え、良い気持ちで生活が望めるように工夫がなされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の得意な事や昔のしきたり等、様々な生活場面で職員が教わる事があったり、また、そのような場面を引き出す事が出来る様に声かけ等工夫がなされている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の口調や表情から、その時の気持ちを察するよう努め、その時々々の体調や気分に合わせて支援がなされている。また、表に現れない気持ちを考えながら日々の関りの中で、入居者の意向が把握できる様に取り組まれている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	面会時に、入居者の生活状況、課題やケアの状況を家族に伝え、意向を聞き、より良いケアに向け職員と話し合いながら介護計画を作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画見直しは6ヶ月ごとに行なわれ、入居者の状態変化があった時は、家族、職員と話し合い、現状に即した計画を作成するように努められている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の希望に合わせ、通院や買い物の支援が行なわれている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者が希望するかかりつけ医との連携を図り、往診の受け入れ等適切な医療が受けられるよう支援されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期の利用については、主治医、家族、職員と話し合いを持ち、今後の方針、意向を確認し、ケア方針を介護計画に記載し、全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者を否定せず、受けとめ傾聴し、丁寧な言葉かけや対応が行なわれている。個人情報の記録等は事務所に保管され、取り扱いに十分配慮されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の希望に合わせ、通院や買い物の支援が行なわれている。個々の生活歴やホームの日々の生活の中で出来る限り意向を把握し、一人ひとりの生活の流れに添って過ごせるように支援されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者を中心にホーム内での食事懇談会を開き、季節にあった献立等、希望を聞く機会をもうけている。また、入居者の体調に応じて職員と一緒に準備や片付けが行われている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者に入浴の意向を確認し、無理強いしないような支援がなされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除や洗濯たたみなど、一人ひとりの生活歴や身体の状態に応じ役割を持ち、昔の行事は、出来るだけ昔の方法のまま行うなど、楽しみごとへの工夫がなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の希望に応じて買い物等の外出支援がなされている。パンの移動販売は、自由に買い物ができるよう配慮がなされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者が自由に外へ出られるように鍵はかけられていない。外へ出られる時は、一緒に付き添うよう支援がなされている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設施設と共同で年6回の避難訓練を実施されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の一人ひとりの食事や水分摂取量は、日々チェックし把握されている。食事は併設施設の栄養士からアドバイスを受け、栄養バランス等の配慮がなされている。水分補給は、食後、食間、入浴後、散歩後と定期的に摂取できるよう支援をされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物の中心には中庭があり、自然の明かりが差し込み心地よく感じられる。神棚が祭られ、花が飾られ季節感を取り入れた心地よい空間作りがなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が自宅で使い慣れたタンスや身の回りの品、仏壇等を持ち込まれ、居心地よく暮らせる工夫がなされている。		